

(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2020年6月11日(11.06.2020)



(10) 国際公開番号

WO 2020/115916 A1

(51) 国際特許分類:
A61F 13/49 (2006.01) A61F 13/495 (2006.01)
A61F 13/494 (2006.01)

(21) 国際出願番号: PCT/JP2018/045194

(22) 国際出願日: 2018年12月7日(07.12.2018)

(25) 国際出願の言語: 日本語

(26) 国際公開の言語: 日本語

(71) 出願人: ユニ・チャーム株式会社(UNICHARM CORPORATION) [JP/JP]; 〒7990111 愛媛県四国中央市金生町下分182番地 Ehime (JP).

(72) 発明者: 松井 尊司 (MATSUI, Takashi); 〒7691602 香川県観音寺市豊浜町和田浜1531-7 ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内 Kagawa (JP). 山中 康弘(YAMANAKA, Yasuhiro); 〒7691602 香川県観音寺市豊浜町和田浜1531-7 ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内 Kagawa (JP). 坂口 智(SAKAGUCHI, Satoru); 〒7691602 香川県観音

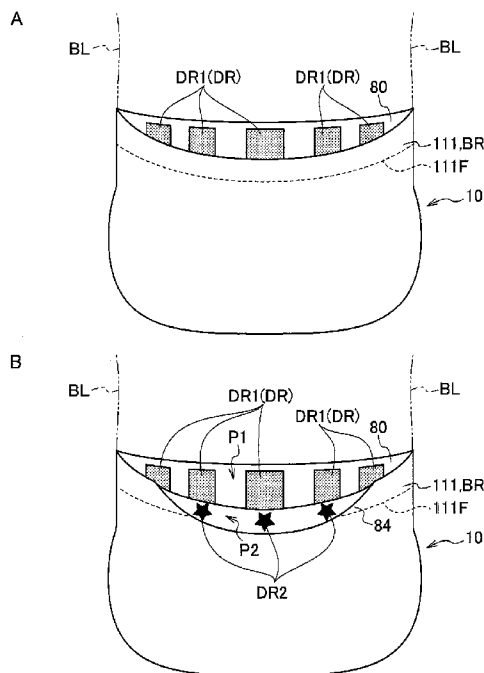
寺市豊浜町和田浜1531-7 ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内 Kagawa (JP).

(74) 代理人: フェリシテ特許業務法人 (FELICITE PATENT PROFESSIONAL CORPORATION); 〒1050002 東京都港区愛宕二丁目5番1号 Tokyo (JP).

(81) 指定国(表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DJ, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IR, IS, JO, JP, KE, KG, KH, KN, KP, KR, KW, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW.

(54) Title: DISPOSABLE DIAPER

(54) 発明の名称: 使い捨ておむつ



(57) Abstract: A disposable diaper 10 has an absorption core 31, a waist band 80 which is disposed in a rear body region S2, and a body section 11 which comprises a member including the absorption core 31 and disposed further toward the non-skin-facing surface side T2 than the waist band 80. The waist band 80 has a joining section 84 which is joined to the body section 11, and a non-joining section 85 which is not joined to the body section 11. The waist band 80 is provided with a design which, when the disposable diaper 10 is worn by a wearer, is visible from the non-skin-facing surface side on the back side of the wearer.

(57) 要約: 使い捨ておむつ10は、吸収コア31と、後胴回り域S2に配置されているウエストバンド80と、吸収コア31を含み、かつウエストバンド80よりも非肌対向面側T2に配置されている部材により構成されている本体部11と、を有する。ウエストバンド80は、本体部11に接合された接合部84と、本体部11に接合されていない非接合部85と、を有する。ウエストバンド80には、使い捨ておむつ10の着用時において着用者の背中側の非肌対向面側から視認可能であるデザインが設けられている。

(84) 指定国(表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, ST, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類：

一 国際調査報告 (条約第21条(3))

明 細 書

発明の名称： 使い捨ておむつ

技術分野

[0001] 本発明は、使い捨ておむつに関する。

背景技術

[0002] 従来、後胴回り域に配置されているウエストバンドを有する使い捨ておむつが知られている（例えば、特許文献1 参照）。ウエストバンドは、ウエストバンドよりも非肌対向面側に配置されている部材により構成されている本体部に接合された接合部と、本体部に接合されていない非接合部と、を有している。ウエストバンドの非接合部によって、ウエスト開口側への排泄物の移動をウエストバンドが塞ぎ止めることができ、ウエスト開口から排泄物が漏れることを抑制できる。

先行技術文献

特許文献

[0003] 特許文献1： 米国特許公開公報 2 0 1 8 / 7 1 1 5 5 号

発明の概要

[0004] ウエストバンドを有さない一般的な使い捨ておむつの方が、ウエストバンドを有する使い捨ておむつに比べて、広く知られている。このため、装着者は、一般的な使い捨ておむつと同じように、ウエストバンドを認識することなく着用者に使い捨ておむつを装着させることがあった。ウエストバンドは、ウエストバンドよりも非肌対向面側に配置されている本体部に接合されているため、ウエストバンドの少なくとも一部は、本体部の肌対向面側で本体部と厚さ方向に重なっている。このため、使い捨ておむつの着用時において、着用者の背中側の非肌対向面側から使い捨ておむつを視認した場合に、ウエストバンドが本体部と一体化して見え易く、ウエストバンドそのものを認識し難かった。このため、装着者は、着用者に装着させた使い捨ておむつがウエストバンドを有するにもかかわらず、一般的な使い捨ておむつと同じよ

うに、ウエスト開口からの漏れに対する不安感を抱えたまま、使い捨ておむつを使用し続ける虞がある。

[0005] 使い捨ておむつを着用した着用者は、身体の背中側のラインがC字状となる前屈みの姿勢を取ることがある。この姿勢では、着用者の肌が、背中側のウエスト開口から離れるため、装着者が、ウエスト開口からの漏れに対する不安を感じ易かった。

[0006] そこで、ウエストバンドを有する使い捨ておむつであって、ウエスト開口からの排泄物の漏れに対する不安感を低減し、装着者に安心感を与え易い使い捨ておむつが望まれる。

[0007] 一態様に係る使い捨ておむつは、互いに直交する前後方向及び幅方向と、厚さ方向と、前胴回り域及び後胴回り域と、前記前胴回り域と前記後胴回り域との間に配置された股下域と、吸収コアと、前記後胴回り域に配置されているウエストバンドと、前記吸収コアを含み、かつ前記ウエストバンドよりも非肌対向面側に配置されている部材により構成されている本体部と、を有する。前記ウエストバンドは、前記本体部に接合された接合部と、前記本体部に接合されていない非接合部と、を有する。前記ウエストバンドには、前記使い捨ておむつの着用時において着用者の背中側の非肌対向面側から視認可能であるデザインが設けられている。

図面の簡単な説明

[0008] [図1]図1は、実施形態に係る使い捨ておむつを肌対向面側から見た模式平面図（その1）である。

[図2]図2は、図1に示すA－A線に沿った模式断面図である。

[図3]図3は、伸長状態における図1に示すB－B線に沿った模式断面図である。

[図4]図4は、自然状態における図1に示すB－B線に沿った模式断面図である。

[図5]図5は、図4を基準とした断面における着用状態を模式的に示した図である。

[図6]図6は、図5のV矢視図を模式的に示した図である。

[図7]図7は、変更例1に係る使い捨ておむつ10を説明するための図である。
。

[図8]図8は、変更例2から4に係る使い捨ておむつ10の模式断面図である。
。

[0009] (1) 実施形態の概要

本明細書及び添付図面の記載により、少なくとも以下の事項が明らかとなる。

[0010] 一態様に係る使い捨ておむつは、互いに直交する前後方向及び幅方向と、厚さ方向と、前胴回り域及び後胴回り域と、前記前胴回り域と前記後胴回り域との間に配置された股下域と、吸収コアと、前記後胴回り域に配置されているウエストバンドと、前記吸収コアを含み、かつ前記ウエストバンドよりも非肌対向面側に配置されている部材により構成されている本体部と、を有する。前記ウエストバンドは、前記本体部に接合された接合部と、前記本体部に接合されていない非接合部と、を有する。前記ウエストバンドには、前記使い捨ておむつの着用時において着用者の背中側の非肌対向面側から視認可能であるデザインが設けられている。

[0011] 本態様によれば、装着者が、使い捨ておむつを着用した着用者を、着用者の背中側の非肌対向面側から視認する際に、ウエストバンドに設けられたデザインに注目し易くなる。従って、デザインによってウエストバンドの視認性を強調することができる。特に、前屈みの姿勢では、着用者の肌（背中）が、背中側のウエスト開口（本体部）から離れるため、ウエストバンドのデザインをより視認することができる。従って、ウエスト開口からの漏れに対する不安を感じ易いシーンで、ウエストバンドの視認性を向上させることができる。装着者が、ウエストバンドの視認によって、ウエストバンドを認識することができるため、ウエスト開口からの排泄物の漏れに対する不安感を低減でき、装着者に漏れ不安に対する安心感を与えることができる。

[0012] また、本体部は、ウエストバンドよりも非肌対向面側に配置されている。

従って、使い捨ておむつの着用時において、ウエストバンドは、着用者の肌（背中）と本体部との間に配置されているため、装着者には、ウエストバンドが内履きのおむつに見えることがある。この場合、装着者には、着用者が使い捨ておむつを2枚履きしているように見える。これにより、ウエスト開口からの排泄物の漏れに対する不安が低減するため、装着者に漏れ不安に対する安心感を与えることができる。

[0013] 好ましい一態様によれば、股下域側に向かって開口する空間が形成されてよい。前記空間の少なくとも肌対向面側には、前記ウエストバンドが配置されてよい。これにより、股下域側に向かって開口する空間が、ウエスト開口側に移動する排泄物を収容する空間として機能して、ウエスト開口から排泄物が漏れることを抑制できる。

[0014] 好ましい一態様によれば、前記非接合部は、前記幅方向に延びるバンド折り目によって折られてよい。前記非接合部は、着用者の肌に当接する肌当接面を有する肌当接部と、前記本体部に対して起立する起立部と、を有してよい。前記起立部は、前記幅方向に伸縮する弾性部材を有してよい。これにより、弾性部材によって起立部の起立性が向上するため、ウエストバンドが本体部からさらに離れ易くなる。ウエストバンドに設けられたデザインが本体部に遮られ難くなり、ウエストバンドの視認性をさらに向上できる。

[0015] 好ましい一態様によれば、前記使い捨ておむつは、前記非接合部のうち前記本体部の後端縁よりも前側の所定位置から後側に向かって延びる第1部分と、前記第1部分に前記非肌対向面側から対向し、かつ前記所定位置から後側に向かって延びる第2部分と、を有してよい。前記第1部分と前記第2部分との間において後側に向かって開口する空間が形成されてよい。前記デザインは、少なくとも前記第1部分に設けられてよい。第1部分と第2部分との間において後側に向かって開口する空間が形成されるため、着用者が前屈みになった場合などに、第1部分は、第2部分から肌対向面側T1に離れることが可能である。これにより、装着者は、使い捨ておむつの着用時において着用者の背中側の非肌対向面側から第1部分に設けられているデザインを

視認し易くなり、ウエストバンドの視認性をさらに向上できる。加えて、装着者には、第1部分が内履きのおむつに見え易くなり、本体部が外履きのおむつに見え易くなる。従って、装着者には、着用者が使い捨ておむつを2枚履きしているように見え易くなる。これにより、ウエスト開口からの排泄物の漏れに対する不安が低減するため、装着者に漏れ不安に対する安心感を与えることができる。

[0016] 好ましい一態様によれば、前記使い捨ておむつの伸長状態において、前記ウエストバンドの後端縁は、前記後胴回り域における前記本体部と前記厚さ方向において重なってよい。これにより、伸長状態においてウエストバンドが本体部と厚さ方向において重ならない場合（すなわち、ウエストバンドが本体部の後端縁から前後方向の外側へ露出する場合）と比べると、ウエストバンドが、本体部の後端縁から前後方向の外側へ露出する部分を低減できる。これにより、使い捨ておむつの搬送中に、ウエストバンドに直に働く力を抑制でき、使い捨ておむつの使用前においてウエストバンドを保護することができる。

[0017] 一方で、ウエストバンドが本体部と重なる領域が多くなるため、着用前の使い捨ておむつ、及び背筋を伸ばした状態での着用時の使い捨ておむつでは、ウエストバンドが視認し難くなる。しかしながら、前屈みのシーンでは、装着者は、使い捨ておむつの着用時において着用者の背中側の非肌対向面側から第1部分に設けられているデザインを視認し易くなる。従って、排泄物の漏れに対する不安を装着者が感じ易い前屈みのシーンにおいてウエストバンドの視認性を向上することで、使用前にウエストバンドを保護しつつも、装着者に漏れ不安に対する安心感を与えることができる。

[0018] 好ましい一態様によれば、前記デザインは、前記第1部分に設けられている第1デザインと、前記第2部分に設けられており、かつ前記第1デザインと種類が異なる第2デザインと、を有してよい。第1デザインと第2デザインとは種類が異なるため、第1デザインが設けられている第1部分は、内履きのおむつに見え易く、第1部分に非肌対向面側から対向し第2デザインが

設けられている第2部分は、着用者が実際に着用している使い捨ておむつに見え易い。従って、装着者には、着用者が使い捨ておむつを2枚履きしているように見え易く、ウエスト開口からの排泄物の漏れに対する不安が低減するため、装着者に漏れ不安に対する安心感を与えることができる。

[0019] 好ましい一態様によれば、前記非接合部は、前記幅方向に伸縮する弾性部材によって前記幅方向に伸縮するバンド伸縮領域を有してよい。前記バンド伸縮領域に前記デザインが設けられてよい。バンド収縮部には、デザインが設けられているため、着用者は、デザインに注目し易く、当該デザインが設けられているバンド伸縮領域を把握し易くなる。加えて、着用者の身体に合わせてバンド伸縮領域が伸縮する。この伸縮に合わせてデザインも伸縮するため、ウエストバンドが着用者にフィットしていることを視覚的に把握し易くなる。これにより、ウエスト開口からの排泄物の漏れに対する不安が低減するため、装着者に漏れ不安に対する安心感を与えることができる。

[0020] 好ましい一態様によれば、前記非接合部は、前記幅方向に延びるバンド折り目によって折られてよい。前記非接合部は、前記バンド折り目から後側に向かって延びており、かつ着用者の肌に当接する肌当接面を有する肌当接部と、前記肌当接部よりも前記非肌対向面側において前記バンド折り目から後側に向かって延びており、かつ前記本体部に対して起立する起立部と、を有してよい。前記肌当接部には、前記デザインが設けられてよい。起立部が起立することによって肌当接部と本体部との距離が遠くなるため、装着者が、肌当接部に設けられているデザインを視認し易くなる。

[0021] 好ましい一態様によれば、前記デザインは、前記肌当接部の前記非肌対向面側に設けられてよい。デザインが、肌当接部の肌対向面側（すなわち、腹側）に設けられている場合と比べて、使い捨ておむつの着用時において、肌当接部の非肌対向面側（すなわち、背中側）にデザインを設けられているため、装着者は、当該デザインを明瞭に見やすくなる。従って、装着者は、デザインに注目し易くなり、当該デザインが設けられているウエストバンドを把握し易くなる。

[0022] 好ましい一態様によれば、前記非接合部は、前記幅方向に延びるバンド折り目によって折られており、前記非接合部は、前記バンド折り目から前側に向かって延びており、かつ着用者の肌に当接する肌当接面を有する肌当接部と、前記肌当接部よりも前記非肌対向面側において前記バンド折り目から前側に向かって延びており、かつ前記本体部に対して起立する起立部を有してよい。前記空間は、前記肌当接部と前記起立部とに挟まれることによって形成されてよい。前記起立部には、前記デザインが設けられてよい。これにより、肌当接部よりも非肌面側で延びている起立部は、股下域側に開口する空間の非肌対向面側に位置する。従って、起立部に設けられたデザインによって、当該空間に收容された排泄物が目立ち難くなり、ウエスト開口からの排泄物の漏れに対する漏れ不安に対する安心感を装着者にさらに与え易くなる。

[0023] 好ましい一態様によれば、前記デザインは、前記起立部の前記非肌対向面側に設けられてよい。デザインが、起立部の肌対向面側（すなわち、腹側）に設けられている場合と比べて、使い捨ておむつの着用時において、起立部の非肌対向面側（すなわち、背中側）にデザインを設けられているため、装着者は、当該デザインを明瞭に見やすくなる。従って、装着者は、デザインに注目し易くなり、当該デザインが設けられているウエストバンドを把握し易くなる。

[0024] 好ましい一態様によれば、前記本体部は、前記後胴回り域において前記ウエストバンドと前記厚さ方向に重なる本体重複部を有し、前記本体部の後端縁から前記本体重複部の前端縁までの本体領域の前記非肌対向面側には、前記使い捨ておむつの着用時において前記着用者の背中側の前記非肌対向面側から視認可能である本体デザインが設けられており、前記ウエストバンドの前記デザインと白色との色差の最大値は、前記本体デザインと前記白色との色差の最大値よりも大きくてよい。使い捨ておむつは、一般的に白色であるため、装着者は、白色との色差の最大値が大きいデザインに注目し易くなり、当該デザインが設けられているウエストバンドを把握し易くなる。

[0025] 好ましい一態様によれば、前記デザインは、互いに離れている複数の図により構成されており、前記本体部は、前記後胴回り域において前記ウエストバンドと前記厚さ方向に重なる本体重複部を有し、前記本体部の後端縁から前記本体重複部の前端縁までの本体領域の前記非肌対向面側には、前記使い捨ておむつの着用時において前記着用者の背中側の前記非肌対向面側から視認可能である本体デザインが設けられており、前記本体デザインは、互いに離れている複数の図により構成されており、前記デザインの前記複数の図のうちの2つの図間の平均距離は、前記本体デザインの前記複数の図のうちの2つの図間の平均距離よりも短くてよい。2つの図間の平均距離が短いウエストバンドのデザインは、本体デザインよりも密集しているため、装着者は、デザインに注目し易くなり、当該デザインが設けられているウエストバンドを把握し易くなる。

[0026] 好ましい一態様によれば、前記本体部は、前記後胴回り域において前記ウエストバンドと前記厚さ方向に重なる本体重複部を有してよい。前記本体部の後端縁から前記本体重複部の前端縁までの本体領域の前記非肌対向面側には、前記使い捨ておむつの着用時において前記着用者の背中側の前記非肌対向面側から視認可能である本体デザインが設けられてよい。前記ウエストバンドの前記デザインの総面積は、前記本体デザインの総面積よりも大きくてよい。面積が大きい領域は、面積が少ない領域に比べて注目し易くなるため、装着者は、総面積の大きいウエストバンドのデザインに注目し易くなり、当該デザインが設けられているウエストバンドを把握し易くなる。

[0027] 好ましい一態様によれば、前記本体部は、前記後胴回り域において前記ウエストバンドと前記厚さ方向に重なる本体重複部を有し、前記本体部の後端縁から前記本体重複部の前端縁までの本体領域の前記非肌対向面側には、デザインが設けられていなくてよい。本体領域の非肌対向面側を視認してもデザインが設けられていないため、装着者は、ウエストバンドに設けられているデザインに注目し易くなり、当該デザインが設けられているウエストバンドを把握し易くなる。

[0028] 好ましい一態様によれば、前記非接合部は、前記幅方向に伸縮するシート部材を有しており、前記デザインは、前記シート部材の前記非肌対向面側に設けられてよい。デザインが、シート部材の非肌対向面側に設けられているため、シート部材の肌対向面側に設けられている場合と比べて、装着者は、当該デザインを明瞭に見やすくなる。従って、装着者は、デザインに注目し易くなり、当該デザインが設けられているウエストバンドを把握し易くなる。

[0029] 好ましい一態様によれば、前記非接合部は、前記幅方向に伸縮する弾性部材を有し、前記非接合部は、前記デザインが設けられている不織布層又は前記デザインが設けられているフィルム層の少なくとも一方の層を有し、前記デザインが設けられている不織布層又は前記デザインが設けられているフィルム層は、前記厚さ方向において前記弾性部材と重なっており、かつ前記弾性部材よりも前記非肌対向面側に配置されてよい。デザインが設けられている不織布層又はデザインが設けられているフィルム層が、弾性部材よりも非肌対向面側に配置されているため、装着者は、弾性部材に遮られずに、デザインを視認することができ、デザインを明瞭に見やすくなる。従って、装着者は、デザインに注目し易くなり、当該デザインが設けられているウエストバンドを把握し易くなる。

[0030] (2) 使い捨ておむつの全体概略構成

以下、図面を参照して、実施形態に係る使い捨ておむつについて説明する。なお、以下の図面の記載において、同一又は類似の部分には、同一又は類似の符号を付している。ただし、図面は模式的なものであり、各寸法の比率等は現実のものとは異なることに留意すべきである。したがって、具体的な寸法等は、以下の説明を参酌して判断すべきである。また、図面相互間においても互いの寸法の関係や比率が異なる部分が含まれ得る。

[0031] 使い捨ておむつは、テープ型の使い捨ておむつである。図1は、実施形態に係る使い捨ておむつ10の肌対向面側から見た模式平面図である。図2は、図1に示す使い捨ておむつのA-A断面に沿った模式断面図である。図2

に示す模式断面図では、説明の便宜上、各部材を厚さ方向Tにおいて離間して示しているが、実際の製品においては厚さ方向Tに接している。図1及び図2は、伸長状態の使い捨ておむつを示している。なお、本発明における伸長状態とは、使い捨ておむつ10を皺が形成されない状態まで伸長させた状態である。また、本発明における自然状態とは、パッケージに収容されている使い捨ておむつ10にあっては、パッケージから使い捨ておむつ10を取り出し、20℃±2℃、相対湿度60%±5%RHの雰囲気下において24時間放置した状態である。図3は、伸長状態における図1に示すB-B線に沿った模式断面図である。図4は、自然状態における図1に示すB-B線に沿った模式断面図である。図5は、図4に示す断面を基準とした着用状態を示す図である。図5に示すBLは、着用者の身体のラインを示している。図6は、図5のV矢視図を模式的に示した図である。具体的には、図6は、使い捨ておむつ10を、着用者の背中側の非肌対向面側T2から見た模式図である。図6Aは、本体重複部及びウエストバンドが非肌対向面側へ折り返されていない状態であり（図5参照）、図6Bは、本体重複部及びウエストバンドが非肌対向面側へ折り返されている状態である。

[0032] 使い捨ておむつ10は、互いに直交する前後方向L及び幅方向Wを有する。前後方向Lは、身体前側と身体後側とに延びる方向によって規定される。言い換えると、前後方向Lは、展開された使い捨ておむつ10において前後に延びる方向である。また、使い捨ておむつ10は、前後方向Lと幅方向Wの両方の直交する厚さ方向Tを有する。厚さ方向Tは、着用者側に向かう肌対向面側T1と、肌対向面側と反対側の非肌対向面側T2と、に延びる。

[0033] 使い捨ておむつ10は、前胴回り域S1と、後胴回り域S2と、股下域S3と、を有する。前胴回り域S1は、着用者の前胴回り（腹部）に対向する領域である。後胴回り域S2は、着用者の後胴回り（背部）に対向する領域であり、装着時に身体（臀部）が載せられる領域を含む。股下域S3は、着用者の股下に位置し、前胴回り域S1と後胴回り域S2との間に配置された領域である。従って、股下域S3は、前胴回り域S1及び後胴回り域S2か

らなる２つの胴回り域の間に配置されている。股下域Ｓ３は、着用者の脚回りに配置される脚回り開口部６５が設けられた領域である。脚回り開口部６５は、使い捨ておむつ１０の外側縁から幅方向の内側に凹む部分である。

[0034] 使い捨ておむつ１０は、本体部１１と後述するウエストバンド８０とからなる。図２に示すように、本体部１１は、ウエストバンド８０よりも非肌対向面側Ｔ２に配置されている部材により構成される。従って、本体部１１は、使い捨ておむつ１０を構成する部材のうち、ウエストバンド８０を除いた部材により構成されている。本体部１１は、後述する吸収コア３１を含んでいる。

[0035] 本体部１１は、前胴回り域Ｓ１において前後方向Ｌの外側（前側）に位置する外端縁である前端縁１１Ｆと、後胴回り域Ｓ２において前後方向Ｌの外側（後側）に位置する外端縁である後端縁１１Ｒと、を有する。

[0036] 使い捨ておむつ１０は、吸収材料を含む吸収コア３１を含む。吸収コア３１は、粉碎パルプもしくは高吸収性ポリマー（ＳＡＰ）、又はこれらの混合物等の吸収材料を含む。吸収コア３１は、図示しないコアラップによって覆われてよい。吸収コア３１とコアラップによって吸収体が構成されてよい。コアラップは、テッシュ又はＳＭＳ不織布によって構成され、吸収コア３１の肌対向面側Ｔ１と吸収コア３１の非肌対向面側Ｔ２に配置されてよい。

[0037] 図２に示すように、使い捨ておむつ１０は、吸収コア３１よりも肌対向面側Ｔ１に位置する肌面側シート２０を有する。肌面側シート２０は、吸収コア３１を覆い、かつ使い捨ておむつ１０の全体に亘って配置されている。本実施形態の肌面側シート２０は、表面シート２１と一対のサイドシート２２を含む。なお、コアラップを有する使い捨ておむつにあっては、肌面側シート２０は、コアラップよりも肌対向面側Ｔ１に位置するシートである。表面シート２１は、吸収コア３１の幅方向Ｗの中心を跨いで配置されてよい。一対のサイドシート２２は、表面シート２１の両外側部を覆うように配置されてよい。表面シート２１及びサイドシート２２は、例えば不織布や開孔プラスチックフィルムのような透液性シートによって構成されてよい。

- [0038] サイドシート２２の内側部は、折り返されて重なってよい。重なったサイドシート２２間には、前後方向Ｌに延びる防漏弾性部材６１が設けられてよい。防漏弾性部材６１は、前後方向Ｌに伸縮する。防漏弾性部材６１は、前後方向Ｌに伸縮する糸ゴムによって構成されてよい。サイドシート２２は、防漏弾性部材６１の収縮によって肌対向面側Ｔ１に起立する。一对のサイドシート２２は、防漏ギャザー６０を構成する。防漏ギャザー６０は、防漏弾性部材６１の収縮によって起立する収縮部６３を有する。防漏ギャザー６０は、収縮部６３の起立支点となる防漏基端縁６４を有する。防漏基端縁６４は、第１防漏基端縁６４１と第２防漏基端縁６４２とを有する。
- [0039] 第１防漏基端縁６４１は、収縮部６３よりも幅方向Ｗの外側において収縮部６３の起立支点となる。第１防漏基端縁６４１は、収縮部６３よりも幅方向の外側においてサイドシート２２と表面シート２１が接合された領域の内側縁である。第２防漏基端縁６４２は、収縮部６３よりも前後方向Ｌの両外側において収縮部６３の起立支点となる。第２防漏基端縁６４２は、収縮部６３よりも前後方向Ｌの両外側においてサイドシート２２と表面シート２１が接合された領域の内端縁である。
- [0040] 収縮部６３は、サイドシート２２が表面シート２１に接合されてなく、防漏弾性部材６１によって収縮可能な部分であり、非伸長状態の防漏弾性部材６１が配置された部分を含まない。収縮部６３の前後方向の範囲を図１に示す。
- [0041] ここで、本発明における外側部とは、幅方向Ｗにおける外側の縁を含む幅方向Ｗに一定の範囲を占める部分であり、外側縁とは、幅方向Ｗにおける外側の縁である。また、内側部とは、幅方向Ｗにおける内側の縁を含む幅方向Ｗに一定の範囲を占める部分であり、内側縁とは、幅方向Ｗにおける内側の縁である。
- [0042] 使い捨ておむつ１０は、吸収コア３１よりも非肌対向面側Ｔ２に位置する非肌面側シート２５を有する。非肌面側シート２５は、吸収コア３１を覆い、かつ使い捨ておむつ１０の全体に亘って配置されている。本実施形態の非

肌面側シート２５は、裏面シート２３と外装シート２４を含む。なお、コアラップを有する使い捨ておむつにあっては、非肌面側シート２５は、コアラップよりも非肌対向面側Ｔ２に位置するシートである。裏面シート２３は、液不透過性のシートであり、ポリエチレンシート、ポリプロピレン等を主体としたラミネート不織布、通気性の樹脂フィルム、スパンボンド、又はスパンレース等の不織布に通気性の樹脂フィルムが接合されたシートなどを用いることができる。外装シート２４は、裏面シート２３の非肌対向面側Ｔ２に設けられてよい。外装シート２４は、液透過性の不織布によって構成されてよい。裏面シート２３の幅方向Ｗの長さは、外装シート２４の幅方向Ｗの長さよりも短く、裏面シート２３の前後方向Ｌの長さは、外装シート２４の前後方向Ｌの長さよりも短くてよい。

[0043] 後胴回り域Ｓ２には、ファスニングテープ９０が設けられている。ファスニングテープ９０は、ベース部９２と係止部９３を有する。ベース部９２の少なくとも一部は、肌面側シート２０と非肌面側シート２５の間に接合され、かつ肌面側シート２０と非肌面側シート２５から幅方向Ｗの外側に延出する。係止部９３は、ベース部９２上に設けられ、ターゲット部９５（図１参照）に着脱可能に止着される。ファスニングテープ９０は、後胴回り域Ｓ２において幅方向Ｗに沿って延び、ターゲット部９５に止着されることにより、使い捨ておむつ１０を着用者の身体に保持する。ターゲット部９５は、前胴回り域Ｓ１に配置されており、ファスニングテープ９０がそれぞれ止着するように構成されている。

[0044] 使い捨ておむつ１０は、２つの胴回り域（前胴回り域Ｓ１及び後胴回り域Ｓ２）の少なくとも後胴回り域Ｓ２に配置されているウエストバンド８０を有する。本実施の形態では、ウエストバンド８０は、後胴回り域Ｓ２に配置されており、前胴回り域Ｓ１に配置されていない。ウエストバンド８０は、本体部１１の肌対向面側Ｔ１に配置されている。ウエストバンド８０は、肌面側シート２０の肌対向面側Ｔ１に配置されている。ウエストバンド８０は、着用時に肌面側シート２０から浮き上がる。これにより、股下域Ｓ３側に

向かって開口する空間（図４及び図５の收容空間ＡＳ）が形成される。收容空間ＡＳの少なくとも肌対向面側Ｔ１には、ウエストバンド８０が配置されている。本実施形態では、收容空間ＡＳの肌対向面側Ｔ１にウエストバンド８０が配置されており、收容空間ＡＳの非肌対向面側Ｔ２に本体部１１（肌面側シート２０）が配置されている。收容空間ＡＳは、ウエスト開口６６側に移動する排泄物を收容するポケットとして機能する。これにより、ウエスト開口６６から排泄物が漏れることを抑制できる。ウエストバンド８０の構成については、後述にて詳細に説明する。ウエスト開口６６は、使い捨ておむつ１０の後端縁１０Ｒと前端縁１０Ｆによって構成され、ファスニングテープ９０がターゲット部９５に止着した状態で腰回りを囲む部分である。

[0045] 図１に示すように、サイドシート２２と裏面シート２３との間、又はサイドシート２２と外装シート２４との間には、前後方向Ｌに延びる脚回り弾性部材４２が設けられてよい。脚回り弾性部材４２は、前後方向Ｌに伸縮する帯状の伸縮シートによって構成されてよい。脚回り弾性部材４２の収縮によって、着用時に使い捨ておむつ１０が脚回りにフィットする。脚回り弾性部材４２は、吸収コア３１よりも幅方向Ｗの外側において、少なくとも股下域Ｓ３において脚回り開口部６５に沿って配置されている。

[0046] サイドシート２２と裏面シート２３との間、及びサイドシート２２と外装シート２４との間には、幅方向Ｗに延びる腰回り弾性部材４５が設けられてよい。腰回り弾性部材４５は、幅方向Ｗに伸縮する略矩形の伸縮シートによって構成されてよい。腰回り弾性部材４５は、肌面側シート２０と非肌面側シート２５の間に接合されている。より詳細には、図２に示すように、腰回り弾性部材４５は、幅方向Ｗに伸長した状態で、吸収コア３１と非肌面側シート２５の間、又は肌面側シート２０と非肌面側シート２５の間に接合されている。腰回り弾性部材４５の収縮によって、着用時に使い捨ておむつ１０が腰回りにフィットする。腰回り弾性部材４５は、少なくとも後胴回り域Ｓ２に配置されている。本実施形態において、腰回り弾性部材４５は、厚さ方向Ｔにおいて吸収コア３１と重なっている。従って、腰回り弾性部材４５の前

端縁４５Ｆは、吸収コア３１の後端縁よりも前側に位置しており、腰回り弾性部材４５の後端縁４５Ｒは、吸収コア３１の前端縁よりも後側に位置している。

[0047] 使い捨ておむつ１０は、吸収コア３１の外側縁３１Ｅよりも幅方向Ｗの外側に延びるサイドフラップ１６を有する。サイドフラップ１６は、ファスニングテープ９０を含む。

[0048] なお、図１に示すように、使い捨ておむつ１０の伸長状態において、ウエストバンド８０の後端縁８０Ｒは、係止部９３の後端縁９３Ｒよりも後側に配置されてよいし、ファスニングテープ９０の後端縁９０Ｒよりも後側に配置されてよい。これにより、ウエストバンド８０がウエスト開口６６側に配置されるため、ウエストバンド８０の視認性を向上させることができる。また、ウエストバンド８０の後端縁８０Ｒは、吸収コア３１の後端縁よりも後側に配置されてよい。これにより、吸収コア３１が排泄物を吸収しきれない場合に、吸収コア３１の後端縁よりも後側へ移動する排泄物を収容空間ＡＳに収容することができる。

[0049] また、使い捨ておむつ１０の伸長状態において、ウエストバンド８０の前端縁８０Ｆは、ファスニングテープ９０の前端縁９０Ｆよりも後側に配置されてよいし、係止部９３の前端縁９３Ｆよりも後側に配置されてよい。これにより、ウエストバンド８０が必要以上に長くなりすぎず、資材コストが増加することを抑制できる。また、ウエストバンド８０の前端縁８０Ｆは、吸収コア３１の後端縁よりも前側に配置されてよい。これにより、収容空間ＡＳの始まりが吸収コアの後端縁よりも前側に位置するため、吸収コア３１の後端縁よりも後側へ移動する排泄物を収容空間ＡＳに収容することができる。

[0050] また、使い捨ておむつ１０の伸長状態において、ウエストバンド８０の後端縁８０Ｒは、後胴回り域Ｓ２における本体部１１と厚さ方向Ｔにおいて重なってよい。従って、ウエストバンド８０の後端縁８０Ｒは、本体部１１の後端縁１１Ｒよりも前側（股下域側Ｓ３）に配置されてよく、ウエストバンド

８０の後端縁８０Ｒと本体部１１の後端縁１１Ｒとが厚さ方向Ｔにおいて重なってよい。これにより、使い捨ておむつ１０の搬送中に、ウエストバンド８０に直に働く力を抑制でき、使い捨ておむつ１０の使用前においてウエストバンド８０を保護することができる。

[0051] (３) ウエストバンドの構成

次いで、ウエストバンド８０の構成について詳細に説明する。ウエストバンド８０は、複数のシートが積層されたシート層８１と、シート層８１に接合されたバンド弾性部材８２と、を有してよい。本実施形態のウエストバンド８０のシート層８１は、第１不織布層８１１と、第２不織布層８１２と、第１不織布層８１１と第２不織布層８１２の間に配置されたフィルム層８１３と、を含んでよい。第１不織布層８１１と第２不織布層８１２は、同一の不織布が折り返されることによって、同一の不織布により構成されている。第１不織布層８１１は、ウエストバンド８０において最も肌面側シート２０側に位置している。

[0052] バンド弾性部材８２は、幅方向Ｗに伸縮する。バンド弾性部材８２は、糸状又は帯状の弾性部材によって構成され、幅方向Ｗに伸長した状態で、シート層８１に固定されている。バンド弾性部材８２は、第１不織布層８１１と液不透過性のフィルム層８１３との間に固定されている。バンド弾性部材８２は、前後方向Ｌに間隔を空けて複数配置されている。バンド弾性部材８２は、後述する肌当接部８５１と起立部８５２とにおいて、それぞれ複数配置されてよい。

[0053] ウエストバンド８０は、幅方向Ｗに伸縮可能に構成されている。ウエストバンド８０は、バンド弾性部材８２によって幅方向に伸縮するように構成されていてもよいし、シート層８１が伸縮性を有することによって幅方向に伸縮するように構成されていてもよい。

[0054] ウエストバンド８０は、幅方向Ｗに伸縮するバンド伸縮領域ＢＳＲを有する（図３参照）。バンド伸縮領域ＢＳＲは、ウエストバンド８０のうち幅方向Ｗに伸縮する領域である。

- [0055] ウエストバンド８０は、後胴回り域Ｓ２においてウエスト開口６６の近傍に配置されてよい。ウエストバンド８０の外側縁８０Ｅは、吸収コア３１の外側縁３１Ｅよりも幅方向Ｗの外側に位置してよく、ファスニングテープ９０の内側縁よりも幅方向Ｗの内側に位置してもよい。ウエストバンド８０の前端縁８０Ｆは、ファスニングテープ９０の前端縁９０Ｆよりも後側に位置してよい。
- [0056] ウエストバンド８０には、使い捨ておむつ１０の着用時において着用者の背中側の非肌対向面Ｔ２側から視認可能であるデザインが設けられている（図６参照）。従って、ウエストバンド８０は、デザインが設けられるデザイン領域ＤＲを有する。。
- [0057] 装着者が、使い捨ておむつ１０を着用した着用者を、着用者の背中側の非肌対向面側Ｔ２から視認する際に、ウエストバンド８０に設けられたデザインに注目し易くなる。従って、デザインによってウエストバンド８０の視認性を強調することができる。特に、前屈みの姿勢では、着用者の肌（背中）が、背中側のウエスト開口６６（本体部１１）から離れるため、ウエストバンド８０のデザインをより視認することができる。従って、ウエスト開口６６からの漏れに対する不安を感じ易いシーンで、ウエストバンド８０の視認性を向上させることができる。装着者が、ウエストバンド８０の視認によって、ウエストバンド８０を認識することができるため、ウエスト開口６６からの排泄物の漏れに対する不安感を低減でき、装着者に漏れ不安に対する安心感を与えることができる。
- [0058] また、本体部１１は、ウエストバンド８０よりも非肌対向面側Ｔ２に配置されている。従って、使い捨ておむつ１０の着用時において、ウエストバンド８０は、着用者の肌（背中）と本体部１１との間に配置されているため、装着者には、ウエストバンド８０が内履きのおむつに見えることがある。この場合、装着者には、着用者が使い捨ておむつを２枚履きしているように見える。これにより、ウエスト開口６６からの排泄物の漏れに対する不安が低減するため、装着者に漏れ不安に対する安心感を与えることができる。

- [0059] デザインは、使い捨ておむつ10の非肌対向面側T2から、伸長状態において視認可能であってよいし、自然状態において視認可能であってよい。
- [0060] なお、本発明における「視認可能」とは、昼白色（色温度目安 4600～5400 K（ケルビン））で明るく照明された室内（目安：500～750 lx（ルクス））で約30～50cmの距離で、良好な視力（1.0以上）を両眼に有する被験者が対象物を見たときに視認できる事を意味している。
- [0061] デザインは、模様（図形及び色の組み合わせ）によって構成される。例えば、デザインは、図6に示すように、前後方向Lに延びる縦縞により構成されてよい。これにより、ウエストバンド80が幅方向Wに伸縮可能に構成されている場合、ウエストバンド80が幅方向Wに伸長することによって、縦縞も伸長し、縦縞の幅方向の長さが変化する。これにより、装着者が、ウエストバンドの身体へのフィット性を感じることができするため、ウエスト開口66からの排泄物の漏れに対する不安感を低減でき、装着者に漏れ不安に対する安心感を与えることができる。
- [0062] デザインは、幅方向Wに延びる横縞、丸形、星型、ハート型などの少なくともいずれかにより構成されてよい。
- [0063] デザインは、ウエストバンド80を構成する部材（不織布、又はフィルムなど）に印刷されることによって設けられてよい。また、デザインは、ウエストバンド80を構成する有色の部材（不織布、フィルムなど）によって設けられてよい。有色の部分がデザインを構成してよい。また、デザインは、例えば、ハート型、星型等のデザイン性を有するヒートシールをウエストバンド80へ接合することによって設けられてよい。デザインは、ウエストバンド80を賦形加工することによって設けられてよい。賦形加工によって、例えば、波線、ドット線により模様や図形がウエストバンド80に描かれてよい。
- [0064] なお、使い捨ておむつ10の伸長状態において、デザイン領域DRの後端縁は、係止部93の後端縁93Rよりも後側に配置されてよいし、ファスニングテープ90の後端縁90Rよりも後側に配置されてよい。これにより、

デザイン領域D Rがウエスト開口6 6側に配置されるため、ウエストバンド8 0の視認性を向上させることができる。

[0065] 図3から図5に示すように、ウエストバンド8 0は、本体部1 1（より具体的には、肌面側シート2 0）に接合されている。ウエストバンド8 0の接合方法として、例えば、ホットメルト型接着剤（HMA）等の接合部材、ソニックシール、ヒートシールなどが用いられる。本実施形態では、ウエストバンド8 0は、接合部材8 3によって接合されている。

[0066] 接合部材8 3は、第1接合部材8 3 1と、第2接合部材8 3 2と、を有する。第1接合部材8 3 1は、ウエストバンド8 0の前後方向Lの端部に配置されており、幅方向Wに延びている（図3参照）。第2接合部材8 3 2は、ウエストバンド8 0の幅方向Wの端部に配置されており、前後方向Lに延びている（図2参照）。

[0067] ウエストバンド8 0は、本体部1 1に接合された接合部8 4と、本体部1 1に接合されていない非接合部8 5と、を有する。

[0068] 接合部8 4は、接合部材8 3に当接している部分であり、本体部1 1と直接的に固定されている。接合部8 4は、第1接合部8 4 1と、第2接合部8 4 2と、を有する。第1接合部8 4 1は、ウエストバンド8 0の前後方向Lの端部に配置されており、幅方向Wに延びている。本実施形態では、第1接合部8 4 1は、非接合部8 5（詳細には、起立部8 5 2）よりも後側に配置されている。第1接合部8 4 1は、第1接合部材8 3 1に当接している部分である。第2接合部8 4 2は、ウエストバンド8 0の幅方向Wの両端部に位置し、本体部1 1に接合されている一対のサイド接合部である。第2接合部8 4 2は、前後方向Lに延びている。第2接合部8 4 2は、非接合部8 5よりも幅方向Wの外側に配置されている（図2参照）。第2接合部8 4 2は、第2接合部材8 3 2に当接している部分である。

[0069] 非接合部8 5は、接合部材8 3に接していない部分であり、本体部1 1との距離を変更可能である。非接合部8 5は、着用者の肌に当接する肌当接面8 5 1 Sを有する肌当接部8 5 1を有している。

[0070] 非接合部 85 は、バンド伸縮領域 BSR を有してよい。バンド伸縮領域 BSR には、デザインが設けられてよい。これにより、着用者は、デザインに注目し易く、当該デザインが設けられているバンド伸縮領域 BSR を把握し易くなる。加えて、着用者の身体に合わせてバンド伸縮領域 BSR が伸縮する。この伸縮に合わせてデザインも伸縮するため、ウエストバンド 80 が着用者にフィットしていることを視覚的に把握し易くなる。これにより、ウエスト開口 66 からの排泄物の漏れに対する不安が低減するため、装着者に漏れ不安に対する安心感を与えることができる。

[0071] 図 4 及び図 5 に示すように、本実施形態では、ウエストバンド 80 の非接合部 85 と肌面側シート 20 とによって挟まれた収容空間 AS によって、前側に向かって開口するポケットが形成されている。肌当接部 851 は、収容空間 AS の肌対向面側 T1 に配置されている。

[0072] 非接合部 85 は、本体部 11（より具体的には、肌面側シート 20）に対して起立する起立部 852 を有してよい。本実施形態において、非接合部 85 は、幅方向 W に延びるバンド折り目 FLB によって折られている。具体的には、非接合部 85 は、バンド折り目 FLB を基点として前後方向 L の外側に折り返されている。肌当接部 851 は、幅方向 W に沿ったバンド折り目 FLB によってウエストバンド 80 が折り返されている部分（折り返し部）により構成されている。肌当接部（折り返し部）851 は、バンド折り目 FLB から前後方向 L の外側（後側）に向かって延びており、起立部 852 よりも肌対向面側 T1 に位置している。

[0073] 起立部 852 は、バンド折り目 FLB によってウエストバンド 80 が折り返されていない部分により構成されている。起立部 852 は、接合部 84 からバンド折り目 FLB まで延びており、かつ起立可能に構成されている。本実施形態において、起立部 852 は、肌当接部 851 よりも非肌対向面側 T2 においてバンド折り目 FLB から後側に向かって延びている。図 3 から図 6 に示すように、肌当接部 851 は、デザイン領域 DR を有し、肌当接部 851 には、デザインが設けられている。起立部 852 が起立することによっ

て肌当接部 851 と本体部 11 との距離が遠くなるため、装着者が、肌当接部 851 に設けられているデザインを視認し易くなる。また、ウエストバンドが着用者にフィットしていることを視覚的に把握し易くなる。

[0074] なお、図 5 に示すように、着用者が前屈みになった場合に、肌当接部 851 と本体部 11 との距離がより遠くなるため、装着者が、肌当接部 851 に設けられているデザインをさらに視認し易くなる。

[0075] 本明細書において、起立部 852 は、非接合部 85 のうち着用者の肌に当接しない部分である。なお、図 3 から図 5 に示すように、着用者の動き及び／又は起立部 852 の起立具合によって、着用者の肌と当接する領域が変化する。従って、肌当接部 851 の前後方向 L の長さとは起立部 852 の前後方向 L の長さは、変化してもよい。

[0076] なお、図 6 に示すように、デザインは、肌当接部 851 だけでなく、起立部 852 に設けられてよい。起立部 852 は、デザイン領域を有してよい。

[0077] 図 3 から図 5 に示すように、肌当接部 851 の非肌対向面側 T2 にデザイン領域、すなわちデザインが設けられてよい。デザインが、肌当接部 851 の肌対向面側 T1（すなわち、腹側）に設けられている場合と比べて、使い捨ておむつの着用時において、肌当接部 851 の非肌対向面側 T2（すなわち、背中側）にデザインを設けられているため、装着者は、着用者の背中側の非肌対向面 T2 側から当該デザインを明瞭に見やすくなる。従って、装着者は、デザインに注目し易くなり、当該デザインが設けられているウエストバンド 80 を把握し易くなる。

[0078] また、非接合部 85 は、デザインが設けられている第 2 不織布層 812 を有してよい。第 2 不織布層 812 は、厚さ方向 T においてバンド弾性部材 82 と重なっており、かつバンド弾性部材 82 よりも非肌対向面側 T2 に配置されてよい。図 3 において、第 2 不織布層 812 は、肌当接部 851 におけるバンド弾性部材 82 よりも非肌対向面側 T2 に配置されている。第 2 不織布層 812 が、バンド弾性部材 82 よりも非肌対向面側 T2 に配置されているため、装着者は、バンド弾性部材 82 に遮られずに、デザインを視認する

ことができ、デザインを明瞭に見やすくなる。従って、装着者は、デザインに注目し易くなり、当該デザインが設けられているウエストバンド８０を把握し易くなる。

[0079] 図３から図５に示すように、非接合部８５は、バンド弾性部材８２を有してよい。これにより、バンド弾性部材８２によって起立部８５２の起立性が向上するため、ウエストバンド８０が本体部１１からさらに離れ易くなる。ウエストバンド８０に設けられたデザインが本体部１１に遮られ難くなり、ウエストバンド８０の視認性をさらに向上できる。

[0080] なお、着用者の背中側から第２不織布層８１２を見る場合、起立部８５２におけるバンド弾性部材８２によりデザインが遮られないため、起立部８５２におけるバンド弾性部材８２は、第２不織布層８１２よりも非肌対向面側Ｔ２に配置されてよい。

[0081] 使い捨ておむつ１０は、非接合部８５のうち本体部１１の後端縁１１Ｒよりも前側の所定位置から後側に向かって延びる第１部分Ｐ１と、第１部分Ｐ１に非肌対向面側Ｔ２から対向し、かつ所定位置から後側に向かって延びる第２部分Ｐ２と、有してよい。第１部分Ｐ１と第２部分Ｐ２との間において後側に向かって開口する空間が形成されてよい。

[0082] 第１部分Ｐ１は、デザイン領域ＤＲを有してよい。すなわち、第１部分Ｐ１には、デザインが設けられてよい。第１部分Ｐ１と第２部分Ｐ２との間において後側に向かって開口する空間が形成されるため、着用者が前屈みになった場合などに、第１部分Ｐ１は、第２部分Ｐ２から肌対向面側Ｔ１に離れることが可能である。これにより、装着者が、使い捨ておむつの着用時において着用者の背中側の非肌対向面側Ｔ２から第１部分Ｐ１に設けられているデザインを視認し易くなり、ウエストバンド８０の視認性をさらに向上できる。加えて、装着者には、第１部分Ｐ１が内履きのおむつに見え易くなり、第２部分Ｐ２が外履きのおむつに見え易くなる。従って、装着者には、着用者が使い捨ておむつ１０を２枚履きしているように見え易くなる。これにより、ウエスト開口６６からの排泄物の漏れに対する不安が低減するため、装

着者に漏れ不安に対する安心感を与えることができる。

[0083] 本実施形態のように、使い捨ておむつ 10 の伸長状態において、ウエストバンド 80 の後端縁 80 R は、後胴回り域 S 2 における本体部 11 と厚さ方向 T おいて重なっているケースでは、ウエストバンド 80 が本体部 11 と重なる領域が多くなる。従って、使用前の使い捨ておむつ 10、及び背筋を伸ばした状態での着用時の使い捨ておむつ 10 では、ウエストバンド 80 が視認し難くなる。しかしながら、本実施形態では、前屈みのシーンにおいて、装着者は、使い捨ておむつ 10 の着用時において着用者の背中側の非肌対向面側 T 2 から第 1 部分 P 1 に設けられているデザインを視認し易くなる。従って、排泄物の漏れに対する不安を装着者が感じ易い前屈みのシーンにおいてウエストバンド 80 の視認性を向上することで、使用前にウエストバンド 80 を保護しつつも、装着者に漏れ不安に対する安心感を与えることができる。

[0084] 本実施形態では、所定位置がバンド折り目 F L B である。図 4 及び図 5 に示すように、ウエストバンド 80 のうち、肌対向面側 T 1 でバンド折り目 F L B から後側に向かって延びる部分が第 1 部分 P 1 であり、非肌対向面側 T 2 でバンド折り目 F L B から後側に向かって延びる部分が第 2 部分 P 2 である。本実施形態において、第 1 部分 P 1 は、肌当接部 851 である。第 2 部分 P 2 は、起立部 852 及び接合部 84 である。

[0085] 図 4 から図 6 に示すように、第 1 部分 P 1 は、第 1 デザイン領域 D R 1 を有し、第 2 部分 P 2 は、第 2 デザイン領域 D R 2 を有する。第 1 デザイン領域 D R 1 は、第 1 部分に設けられるデザイン領域である。第 2 デザイン領域 D R 2 は、第 2 部分 P 2 に設けられるデザインである。ウエストバンド 80 に設けられるデザインは、第 1 デザインと第 2 デザインとを有してよい。例えば、第 1 部分 P 1 には、第 1 デザイン（図 6 の縦縞）が設けられてよく、第 2 部分 P 2 には、第 1 デザインと種類が異なる第 2 デザイン（図 6 の星）が設けられてよい。

[0086] 第 1 部分 P 1 と第 2 部分 P 2 との間において後側に向かって開口する空間

が形成されるため、着用者は、第1デザインと第2デザインとを、着用者の背中側の非肌対向面側T2から視認することができる。ここで、第1デザインと第2デザインとは種類が異なるため、第1デザインが設けられている第1部分P1は、内履きのおむつに見え易く、第1部分P1に非肌対向面側T2から対向し第2デザインが設けられている第2部分P2は、着用者が実際に着用している使い捨ておむつに見え易い。従って、図6に示すように、装着者には、着用者が使い捨ておむつを2枚履きしているように見え易く、ウエスト開口66からの排泄物の漏れに対する不安が低減するため、装着者に漏れ不安に対する安心感を与えることができる。

[0087] なお、デザインの種類が異なるとは、第1デザイン領域DR1と第2デザイン領域DR2とに同じデザインが描かれていないことを意味する。従って、第1デザインと第2デザインとは、形状及び色の少なくともいずれかが異なっている場合、デザインの種類が異なる。

[0088] 図3及び図6に示すように、本体部11は、後胴回り域S2においてウエストバンド80と厚さ方向Tに重なる本体重複部111を有してよい。本体部11の後端縁11Rから本体重複部111までの非肌対向面側T2の本体領域BRの非肌対向面側T2には、デザインが設けられてなくてよい（図6A参照）。本体領域BRの非肌対向面側T2を視認してもデザインが設けられていないため、装着者は、ウエストバンド80に設けられているデザインに注目し易くなり、当該デザインが設けられているウエストバンド80を把握し易くなる。

[0089] なお、本体領域BRよりも前側（股下側）の領域には、デザインが設けられていてもよい。当該デザインは、本体部11の後端縁11Rから離れているため、ウエストバンド80のデザインと混同し難い。このため、装着者が、デザインが設けられているウエストバンド80を把握し易くなる。本体領域BRよりも前側（股下側）の領域には、デザインが設けられなくてもよい。

[0090] なお、本実施形態では、ウエストバンド80は、本体部11の後端縁11

Rにまで配置されているため、本体重複部111と本体領域BRとが一致する。ウエストバンド80の後端縁80Rが、本体部11の後端縁11Rよりも前側に配置される場合には、本体部11の後端縁11Rから本体重複部111の後端縁までの領域の分だけ、本体領域BRが本体重複部よりも大きい。

[0091] 起立部852は、液不透過性のフィルム層813を有する。本実施形態において、起立部852は、收容空間ASの肌対向面側T1に配置されている。液不透過性のフィルム層813を有する起立部852が收容空間ASの肌対向面側T1に配置されているため、ポケットとして機能する收容空間ASに收容された排泄物が、フィルム層813が配置されている肌対向面側T1から滲み出すことを抑制することができる。使用後の排泄物の滲み出しを抑制することで、装着者に漏れ不安に対する安心感をさらに与え易くなる。

[0092] ウエストバンド80は、起立部852の起立支点となる基端縁を有してよい。基端縁は、起立部852よりもウエスト開口66側に位置する第1基端縁と、吸収コア31よりも幅方向Wの外側に位置する第2基端縁と、を有する。第1基端縁は、接合部84（第1接合部841）の前端縁84Fによって構成されている。接合部84は、第1基端縁から前後方向Lに延びている。第2基端縁は、接合部84（第2接合部842）の側端縁84Eによって構成されている。

[0093] なお、図2に示すように、ウエストバンド80の幅方向Wの側端部どうしは、接合部材83であるサイド接合部材833により接合されてよい。非接合部85は、サイド接合部材833の肌対向面側T1に配置されている一対の肌当接合部853を有してよい。一対の肌当接合部853の非肌対向面側T2は、サイド接合部材833により第2接合部842と接合されている。

[0094] （4）変更例

次に、各変更例について、図7及び図8を用いて説明する。図7は、変更例1に係る使い捨ておむつ10を説明するための図である。図6と同様に、

図 7 A は、変更例 1 に係る使い捨ておむつ 10 を、着用者の背中側の非肌対向面側 T 2 から見た模式図である。図 7 B は、ウエストバンド 80 のデザインを説明するための図である。図 7 C は、後述する本体デザインを説明するための図である。図 8 は、変更例 2 から 4 に係る使い捨ておむつ 10 の模式断面図である。図 8 は、図 4 の B-B 線に沿った断面図と同様の箇所における模式断面図である。図 8 A は、変更例 2 に係る使い捨ておむつ 10 の模式断面図であり、図 8 B は、変更例 3 に係る使い捨ておむつ 10 の模式断面図であり、図 8 C は、変更例 4 に係る使い捨ておむつ 10 の模式断面図である。なお、上述の実施形態と同様の部分は、説明を省略する。

[0095] 変更例 1 に係る使い捨ておむつ 10 を、図 7 を用いて説明する。なお、図 7 において、ウエストバンドのデザインを F 1（図 F 1 1，図 F 1 2，図 F 1 3）で示し、本体デザインを F 2（図 F 2 1，図 F 2 2，図 F 2 3）で示す。

[0096] 図 7 に示すように、本体領域 B R には、使い捨ておむつ 10 の着用時に於いて着用者の背中側の非肌対向面側から視認可能である本体デザイン F 2 が設けられてよい。

[0097] ウエストバンド 80 のデザイン F 1 と白色の色差の最大値は、本体デザイン F 2 と白色の色差の最大値よりも大きくてよい。使い捨ておむつ 10 は、一般的に白色であるため、装着者は、白色との色差の最大値が大きいデザインに注目し易い。従って、装着者は、デザイン F 1 が設けられているウエストバンド 80 を把握し易くなる。

[0098] 白色に対する色差は、色差計（例えば、コニカミノルタ社製の色彩色差計 C R-300）を用いて以下の方法にて取得できる。

[0099] 色差計を用いて、白色の基準領域、及び各対象領域（デザイン F 1 が設けられている領域、本体デザイン F 2 が設けられている領域）の測定を行い、各領域の測定結果（L*値、a*値、b*値）を取得する。

[0100] なお、1つの対象領域におけるデザインが複数の色を有する場合には、白色との色差が最大となる色が含まれる部分を測定対象とする。また、使い捨て

ておむつ 10 のうち白色の領域を白色の基準領域とし、当該基準領域で測定した色を本発明の白色にできる。

- [0101] そして、対象領域ごとに、白色の基準領域（例えば 10 K）に対する色差 ΔE^*ab を取得する。色差 ΔE^*ab は、対象領域の測定結果と、基準領域の測定結果との差（ ΔL^* 、 Δa^* 、 Δb^* ）に基づき、次の式にて算出できる。

$$\Delta E^*ab = [(\Delta L^*)^2 + (\Delta a^*)^2 + (\Delta b^*)^2]^{1/2}$$

- [0102] 色差 ΔE^*ab が大きい領域ほど、白色に対する色差が大きい領域である。領域ごとに、同じ箇所を複数回測定した結果の平均値や、異なる複数の箇所の測定結果の平均値に基づき、色差 ΔE^*ab を取得することが好ましい。

- [0103] 図 7 に示すように、デザイン F 1 は、互いに離れている複数の図（図 F 1 1 ～図 F 1 3）により構成されてよい。同様に、本体デザイン F 2 は、互いに離れている複数の図（図 F 2 1 ～図 F 2 3）により構成されてよい。この場合、デザイン F 1 の複数の図のうちの 2 つの図間の平均距離が、本体デザイン F 2 の複数の図のうちの 2 つの図間の平均距離よりも短くてよい。2 つの図間の平均距離が短いウエストバンドのデザイン F 1 は、本体デザイン F 2 よりも密集しているため、装着者は、デザイン F 1 に注目し易くなり、デザイン F 1 が設けられているウエストバンド 80 を把握し易くなる。

- [0104] 具体的には、図 7 に示すように、デザイン F 1 は、3 つの図 F 1 1 ～図 F 1 3 により構成されており、本体デザイン F 2 は、3 つの図 F 2 1 ～図 F 2 3 により構成されているケースでは、以下の計算式により平均距離を算出できる。

$$\text{デザイン F 1 における平均距離} = (d_{11} + d_{12} + d_{13}) / 3$$

$$\text{本体デザイン F 2 における平均距離} = (d_{21} + d_{22} + d_{23}) / 3$$

- [0105] d_{11} は、図 F 1 1 から図 F 1 2 までの最短距離であり、 d_{12} は、図 F 1 2 から図 F 1 3 までの最短距離であり、 d_{13} は、図 F 1 3 から図 F 1 1 までの最短距離である。 d_{21} は、図 F 2 1 から図 F 2 2 までの最短距離であり、 d_{22} は、図 F 2 2 から図 F 2 3 までの最短距離であり、 d_{23} は、

図F 2 3 から図F 2 1 までの最短距離である。

[0106] ウエストバンド8 0 のデザインF 1 に用いられている色の数が、本体デザインF 2 に用いられている色の数よりも多くてもよい。多くの色が用いられているデザインの方が、少ない色が用いられているデザインに比べて注目され易い。従って、装着者は、多くの色のデザインが設けられているウエストバンド8 0 を把握し易くなる。

[0107] また、ウエストバンド8 0 のデザインF 1 の総面積は、本体デザインF 2 の総面積よりも大きくてよい。本実施形態では、デザインF 1 の総面積は、図F 1 1 ～F 1 3 の合計の面積である。本体デザインF 2 の総面積は、図F 2 1 ～F 2 3 の合計の面積である。面積が大きい領域は、面積が少ない領域に比べて注目し易くなるため、装着者は、総面積の大きいウエストバンド8 0 のデザインF 1 に注目し易くなり、デザインF 1 が設けられているウエストバンド8 0 を把握し易くなる。

[0108] デザインの総面積は、例えば、伸長状態のウエストバンド8 0 を非肌対向面側T 2 から撮影することによって画像データを取得し、取得した画像データを画像解析ソフト（例えば、株式会社ユニーク製「UNAnalyzer」）で画像処理することにより得られたデザイン領域DRの面積を測定する。同様に、伸長状態の本体部1 1 を非肌対向面側T 2 から撮影することによって取得した画像データを取得し、取得した画像データを画像解析ソフトで画像処理することにより得られた本体デザイン領域（本体デザインが設けられた領域）の面積を測定する。なお、複数のデザイン領域DR（複数の本体デザイン領域）が存在する場合には、各デザイン領域DR（本体デザイン領域）の面積を合計することにより、デザイン（本体デザイン）の総面積を算出できる。

[0109] 次に、変更例2に係る使い捨ておむつ1 0 を、図8 Aを用いて説明する。図8 Aに示すように、非接合部8 5 は、複数のバンド折り目（第1バンド折り目FLB 1 と第2バンド折り目FLB 2）を有してよい。具体的には、非接合部8 5 は、接合部8 4 に近い第1バンド折り目FLB 1 と接合部8 4 か

ら遠い第2バンド折り目FLB2とを有してよい。非接合部85は、複数のバンド折り目FLBによって折られている。

[0110] 上述の実施形態では、起立部852は、接合部84の前端側から延びていたが、変更例2のように、起立部852は、接合部84の後端側から延びてよい。

[0111] 非接合部85は、デザインが設けられているフィルム層813を有してよい。フィルム層813は、厚さ方向Tにおいてバンド弾性部材82と重なっておりかつバンド弾性部材82よりも非肌対向面側T2に配置されてよい。フィルム層813が、バンド弾性部材82よりも非肌対向面側T2に配置されているため、装着者は、バンド弾性部材82に遮られずに、デザインを視認することができ、デザインを明瞭に見やすくなる。従って、装着者は、デザインに注目し易くなり、当該デザインが設けられているウエストバンド80を把握し易くなる。

[0112] なお、本変更例2では、肌当接部851が第1部分P1であり、起立部852が第2部分P2であり、所定位置が第2バンド折り目FLB2である。第1部分P1に設けられている第1デザインと第2部分P2に設けられている第2デザインとの種類が異なることにより、着用者が使い捨ておむつを2枚履きしているように見え易くしてもよい。

[0113] 次に、変更例3に係る使い捨ておむつ10を、図8Bを用いて説明する。図8Bに示すように、非接合部85は、複数のバンド折り目（第1バンド折り目FLB1と第2バンド折り目FLB2）を有してよい。非接合部85は、複数のバンド折り目FLBによって折られている。

[0114] 本変更例では、肌当接部851は、第2バンド折り目FLB2から前側に向かって延びており、肌当接面851Sを有する。起立部852は、肌当接部851よりも非肌対向面側T2において第2バンド折り目FLB2から前側に向かって延びており、本体部11に対して起立する。収容空間ASは、肌当接部851と起立部852とに挟まれることによって形成されてよい。

[0115] 起立部852には、デザインが設けられてよい。すなわち、起立部852

は、デザイン領域DRを有してよい。起立部852は、股下域S3側に開口する收容空間ASの非肌対向面側T2に位置する。従って、起立部852に設けられたデザインによって、收容空間ASに收容された排泄物が目立ち難くなり、ウエスト開口66からの排泄物の漏れに対する安心感を装着者にさらに与え易くなる。

[0116] また、図8Bに示すように、デザインは、起立部852の非肌対向面側T2に設けられてよい。デザインが、起立部852の肌対向面側T1（すなわち、腹側）に設けられている場合と比べて、使い捨ておむつの着用時において、起立部852の非肌対向面側T2（すなわち、背中側）にデザインを設けられているため、装着者は、当該デザインを明瞭に見やすくなる。従って、装着者は、デザインに注目し易くなり、当該デザインが設けられているウエストバンド80を把握し易くなる。

[0117] なお、本変更例3では、第1バンド折り目FLB1を境界として肌対向面側T1の起立部852が第1部分P1であり、第1バンド折り目FLB1を境界として非肌対向面側T2の起立部852と接合部84とが第2部分P2であり、所定位置が第1バンド折り目FLB1である。第1部分P1に設けられている第1デザインと第2部分P2に設けられている第2デザインとの種類が異なることにより、着用者が使い捨ておむつを2枚履きしているように見え易くしてもよい。

[0118] 次に、変更例4に係る使い捨ておむつ10を、図8Cを用いて説明する。図8Cに示すように、起立部852は、接合部84の後端側から延びてよい。また、ウエストバンド80は、1つのバンド折り目FLBを有してよい。肌当接部851は、バンド折り目FLBから前側に向かって延びており、肌当接面851Sを有する。起立部852は、肌当接部851よりも非肌対向面側T2においてバンド折り目FLBから前側に向かって延びており、体部11に対して起立する。

[0119] 変更例3と同様に、收容空間ASは、肌当接部851と起立部852とに挟まれることによって形成されている。従って、起立部852に設けられた

デザインによって、収容空間 A S に収容された排泄物が目立ち難くなり、ウエスト開口 6 6 からの排泄物の漏れに対する安心感を装着者にさらに与え易くなる。

[0120] なお、本変更例 4 では、起立部 8 5 2 が第 1 部分 P 1 であり、本体部 1 1 のうち接合部 8 4 よりも後側に位置する部分が第 2 部分 P 2 であり、所定位置が第 1 バンド折り目 F L B 1 である。図 8 C に示すように、本体部 1 1 (具体的には、表面シート 2 1) の第 2 部分 P 2 にはデザイン (本体デザイン領域 D R 3) が設けられてよい。第 1 部分 P 1 に設けられている第 1 デザインと第 2 部分 P 2 に設けられているデザインとの種類が異なることにより、着用者が使い捨ておむつを 2 枚履きしているように見え易くしてもよい。

[0121] 図 8 C に示すように、ウエストバンド 8 0 は、バンド弾性部材 8 2 として、幅方向 W に伸縮するシート部材を有してよい。デザインが、シート部材の非肌対向面側 T 2 に設けられてよい。デザインが、シート部材の非肌対向面側 T 2 に設けられているため、シート部材の肌対向面側 T 1 に設けられている場合と比べて、装着者は、当該デザインを明瞭に見やすくなる。従って、装着者は、デザインに注目し易くなり、当該デザインが設けられているウエストバンドを把握し易くなる。

[0122] (5) その他実施形態

以上、上述の実施形態を用いて本発明について詳細に説明したが、当業者にとっては、本発明が本明細書中に説明した実施形態に限定されるものではないということは明らかである。本発明は、特許請求の範囲の記載により定まる本発明の趣旨及び範囲を逸脱することなく修正及び変更態様として実施することができる。したがって、本明細書の記載は、例示説明を目的とするものであり、本発明に対して何ら制限的な意味を有するものではない。

[0123] 上述において、第 1 不織布層 8 1 1 と第 2 不織布層 8 1 2 とは、同一の不織布により構成されていたが、別々の不織布により構成されてよい。

[0124] 上述において、デザインは、不織布層 (第 1 不織布層 8 1 1 及び／又は第 2 不織布層 8 1 2) とフィルム層 8 1 3 との一方の層にのみ設けられてよい

し、不織布層とフィルム層 8 1 3 との両方に設けられてよい。

[0125] 上述において、バンド弾性部材 8 2 は、ウエストバンド 8 0 に配置されなくてもよいし、バンド弾性部材 8 2 は、肌当接部 8 5 1 と起立部 8 5 2 との一方に配置されてよいし、肌当接部 8 5 1 と起立部 8 5 2 の両方に配置されてよい。バンド弾性部材 8 2 が肌当接部 8 5 1 に配置されている場合には、ウエストバンド 8 0 が身体にフィットするため、ウエスト開口 6 6 からの排泄物の漏れを抑制できる。また、バンド弾性部材 8 2 が起立部 8 5 2 に配置されている場合には、ウエストバンド 8 0 の起立性が向上するため、ウエストバンド 8 0 が身体に近づき、ウエスト開口 6 6 からの排泄物の漏れを抑制できる。

[0126] 上述の実施形態及び変更例 2, 3 では、第 1 部分 P 1 (肌当接部 8 5 1 又は起立部 8 5 2) において、デザイン領域 D R が配置される部材 (例えば、第 1 不織布層 8 1 1、フィルム層 8 1 3 など) は、バンド弾性部材 8 2 よりも非肌対向面側 T 2 に配置されていたが、これに限られない。デザイン領域 D R が配置される部材は、バンド弾性部材 8 2 よりも肌対向面側 T 1 に配置されてよい。

[0127] また、図 3 及び図 8 等に示すように、肌当接部 8 5 1 にデザインが設けられてよい。加えて、図 8 B に示すように、肌当接部 8 5 1 において、デザインが設けられている部材は、バンド弾性部材 8 2 よりも肌対向面側 T 1 に配置されてよい。これにより、使い捨ておむつ 1 0 を装着する際に、使い捨ておむつ 1 0 を肌対向面側 T 1 から見て、一般的に肌当接部 8 5 1 のウエストバンド 8 0 が視認され易い。装着者が、肌当接部 8 5 1 に設けられたデザインを視認することで、ウエストバンドを把握し易くなる。

[0128] 上述において、デザイン領域 D R の前後方向 L の外端縁 (具体的には、後端縁) は、ウエストバンド 8 0 の外端縁 (後端縁 1 1 R) にまで延びていてもよい。これにより、デザインをウエストバンド 8 0 外端縁のぎりぎりにまで設けることが可能であり、装着者が、着用者の背中側からデザインを見易くなる。

[0129] また、デザイン領域DRの後端縁は、ウエストバンド80の後端縁11Rから前側に離れていてもよい。例えば、使い捨ておむつ10の伸長状態において、本体部11の後端縁11Rよりも前側に位置してよい。ここで、ウエストバンド80が連続シートに配置された後に、連続シートを切断することによって使い捨ておむつ10を製造するケースでは、連続シートと共にウエストバンド80が切断されることで、デザイン領域DRも切断されることがある。この場合、ウエストバンド80には、不完全なデザインが設けられる。デザイン領域DRの後端縁は、ウエストバンド80の後端縁11Rから前側に離すことにより、ウエストバンド80には、不完全なデザインが設けられないようにしてもよい。

[0130] 上述において、使い捨ておむつ10が幅方向Wに延びる折り目FL1を基点として折られている二つ折りの自然状態において、後胴回り域S2側からの平面視において、ウエストバンド80の一部が、本体部11の後端縁から露出しているとしてもよい。また、二つ折りの自然状態において、ウエストバンド80に設けられたデザインが、本体部11の後端縁から露出しているとしてもよい。これにより、装着者が、ウエストバンド80に設けられたデザインを視認可能であってもよい。

[0131] 上述の実施形態では、使い捨ておむつ10は、テープ型の使い捨ておむつであったが、これに限られない。使い捨ておむつ10は、パンツ型の使い捨ておむつであってもよい。

[0132] 上述の実施形態、各変更例及びその他実施形態に係る使い捨ておむつ10に係る構成は、適宜組み合わせることが可能であることに留意すべきである。

産業上の利用可能性

[0133] 本発明によれば、ウエストバンドを備える使い捨ておむつであって、ウエスト開口からの排泄物の漏れに対する不安感を低減し、装着者に安心感を与え易い使い捨ておむつを提供できる。

符号の説明

[0134]	1 0	: 使い捨ておむつ
	1 1	: 本体部
	1 6	: サイドフラップ
	2 0	: 肌面側シート
	2 1	: 表面シート
	2 2	: サイドシート
	2 3	: 裏面シート
	2 4	: 外装シート
	2 5	: 非肌面側シート
	3 1	: 吸収コア
	4 2	: 脚回り弾性部材
	4 5	: 腰回り弾性部材
	6 0	: 防漏ギャザー
	6 1	: 防漏弾性部材
	6 3	: 収縮部
	6 4	: 防漏基端縁
	6 5	: 脚回り開口部
	6 6	: ウエスト開口
	8 0	: ウエストバンド
	8 1	: シート層
	8 2	: バンド弾性部材
	8 3	: 接合部材
	8 4	: 接合部
	8 5	: 非接合部
	9 0	: ファスニングテープ
	9 2	: ベース部
	9 3	: 係止部
	9 5	: ターゲット部

1 1 1	: 本体重複部
6 4 1	: 第 1 防漏基端縁
6 4 2	: 第 2 防漏基端縁
8 1 1	: 第 1 不織布層
8 1 2	: 第 2 不織布層
8 1 3	: フィルム層
8 3 1	: 第 1 接合部材
8 3 2	: 第 2 接合部材
8 3 3	: サイド接合部材
8 4 1	: 第 1 接合部
8 4 2	: 第 2 接合部
8 5 1	: 肌当接部
8 5 1 S	: 肌当接面
8 5 2	: 起立部
8 5 3	: 肌当接接合部
A S	: 収容空間
B R	: 本体領域
B S R	: バンド伸縮領域
D R	: デザイン領域
D R 1	: 第 1 デザイン領域
D R 2	: 第 2 デザイン領域
D R 3	: 本体デザイン領域
F 1	: デザイン
F 2	: 本体デザイン
F L 1	: 折り目
F L B	: バンド折り目
F L B 1	: 第 1 バンド折り目
F L B 2	: 第 2 バンド折り目

P 1 : 第 1 部分
P 2 : 第 2 部分
S 1 : 前胴回り域
S 2 : 後胴回り域
S 3 : 股下域

請求の範囲

- [請求項1] 互いに直交する前後方向及び幅方向と、厚さ方向と、
前胴回り域及び後胴回り域と、前記前胴回り域と前記後胴回り域と
の間に配置された股下域と、
吸収コアと、
前記後胴回り域に配置されているウエストバンドと、
前記吸収コアを含み、かつ前記ウエストバンドよりも非肌対向面側に
配置されている部材により構成されている本体部と、を有し、
前記ウエストバンドは、前記本体部に接合された接合部と、前記本
体部に接合されていない非接合部を有する使い捨ておむつであって、
前記ウエストバンドには、前記使い捨ておむつの着用時において着
用者の背中側の非肌対向面側から視認可能であるデザインが設けられ
ている、使い捨ておむつ。
- [請求項2] 股下域側に向かって開口する空間が形成され、
前記空間の少なくとも肌対向面側には、前記ウエストバンドが配置
されている請求項1に記載の使い捨ておむつ。
- [請求項3] 前記非接合部は、前記幅方向に延びるバンド折り目によって折られ
ており、
前記非接合部は、着用者の肌に当接する肌当接面を有する肌当接部
と、前記本体部に対して起立する起立部と、を有し、
前記起立部は、前記幅方向に伸縮する弾性部材を有する請求項1又
は2に記載の使い捨ておむつ。
- [請求項4] 前記非接合部のうち前記本体部の後端縁よりも前側の所定位置から
後側に向かって延びる第1部分と、
前記第1部分に前記非肌対向面側から対向し、かつ前記所定位置か
ら後側に向かって延びる第2部分と、を有し、
前記第1部分と前記第2部分との間において後側に向かって開口す
る空間が形成され、

前記デザインは、少なくとも前記第 1 部分に設けられている請求項 1 から 3 のいずれか 1 項に記載の使い捨ておむつ。

[請求項5] 前記使い捨ておむつの伸長状態において、前記ウエストバンドの後端縁は、前記後胴回り域における前記本体部と前記厚さ方向において重なっている請求項 4 に記載の使い捨ておむつ。

[請求項6] 前記デザインは、
前記第 1 部分に設けられている第 1 デザインと、
前記第 2 部分に設けられており、かつ前記第 1 デザインと種類が異なる第 2 デザインと、を有する請求項 4 又は 5 に記載の使い捨ておむつ。

[請求項7] 前記非接合部は、前記幅方向に伸縮する弾性部材によって前記幅方向に伸縮するバンド伸縮領域を有し、
前記バンド伸縮領域に前記デザインが設けられている請求項 1 から 6 のいずれか 1 項に記載の使い捨ておむつ。

[請求項8] 前記非接合部は、前記幅方向に延びるバンド折り目によって折られており、
前記非接合部は、
前記バンド折り目から後側に向かって延びており、かつ着用者の肌に当接する肌当接面を有する肌当接部と、
前記肌当接部よりも前記非肌対向面側において前記バンド折り目から後側に向かって延びており、かつ前記本体部に対して起立する起立部と、を有し、
前記肌当接部には、前記デザインが設けられている請求項 1 から 7 のいずれか 1 項に記載の使い捨ておむつ。

[請求項9] 前記デザインは、前記肌当接部の前記非肌対向面側に設けられている請求項 8 に記載の使い捨ておむつ。

[請求項10] 前記非接合部は、前記幅方向に延びるバンド折り目によって折られており、

前記非接合部は、

前記バンド折り目から前側に向かって延びており、かつ着用者の肌に当接する肌当接面を有する肌当接部と、

前記肌当接部よりも前記非肌対向面側において前記バンド折り目から前側に向かって延びており、かつ前記本体部に対して起立する起立部を有し、

前記空間は、前記肌当接部と前記起立部とに挟まれることによって形成されており、

前記起立部には、前記デザインが設けられている請求項 2 から 7 のいずれか 1 項に記載の使い捨ておむつ。

[請求項11] 前記デザインは、前記起立部の前記非肌対向面側に設けられている請求項 10 に記載の使い捨ておむつ。

[請求項12] 前記本体部は、前記後胴回り域において前記ウエストバンドと前記厚さ方向に重なる本体重複部を有し、

前記本体部の後端縁から前記本体重複部の前端縁までの本体領域の前記非肌対向面側には、前記使い捨ておむつの着用時において前記着用者の背中側の前記非肌対向面側から視認可能である本体デザインが設けられており、

前記ウエストバンドの前記デザインと白色との色差の最大値は、前記本体デザインと前記白色との色差の最大値よりも大きい請求項 1 から 11 のいずれか 1 項に記載の使い捨ておむつ。

[請求項13] 前記デザインは、互いに離れている複数の図により構成されており、

前記本体部は、前記後胴回り域において前記ウエストバンドと前記厚さ方向に重なる本体重複部を有し、

前記本体部の後端縁から前記本体重複部の前端縁までの本体領域の前記非肌対向面側には、前記使い捨ておむつの着用時において前記着用者の背中側の前記非肌対向面側から視認可能である本体デザインが

設けられており、

前記本体デザインは、互いに離れている複数の図により構成されており、

前記デザインの前記複数の図のうちの2つの図間の平均距離は、前記本体デザインの前記複数の図のうちの2つの図間の平均距離よりも短い請求項1から12のいずれか1項に記載の使い捨ておむつ。

[請求項14]

前記本体部は、前記後胴回り域において前記ウエストバンドと前記厚さ方向に重なる本体重複部を有し、

前記本体部の後端縁から前記本体重複部の前端縁までの本体領域の前記非肌対向面側には、前記使い捨ておむつの着用時において前記着用者の背中側の前記非肌対向面側から視認可能である本体デザインが設けられており、

前記ウエストバンドの前記デザインの総面積は、前記本体デザインの総面積よりも大きい請求項1から13のいずれか1項に記載の使い捨ておむつ。

[請求項15]

前記本体部は、前記後胴回り域において前記ウエストバンドと前記厚さ方向に重なる本体重複部を有し、

前記本体部の後端縁から前記本体重複部の前端縁までの本体領域の前記非肌対向面側には、デザインが設けられていない請求項1から11のいずれか1項に記載の使い捨ておむつ。

[請求項16]

前記非接合部は、前記幅方向に伸縮するシート部材を有しており、前記デザインは、前記シート部材の前記非肌対向面側に設けられている請求項1から15のいずれか1項に記載の使い捨ておむつ。

[請求項17]

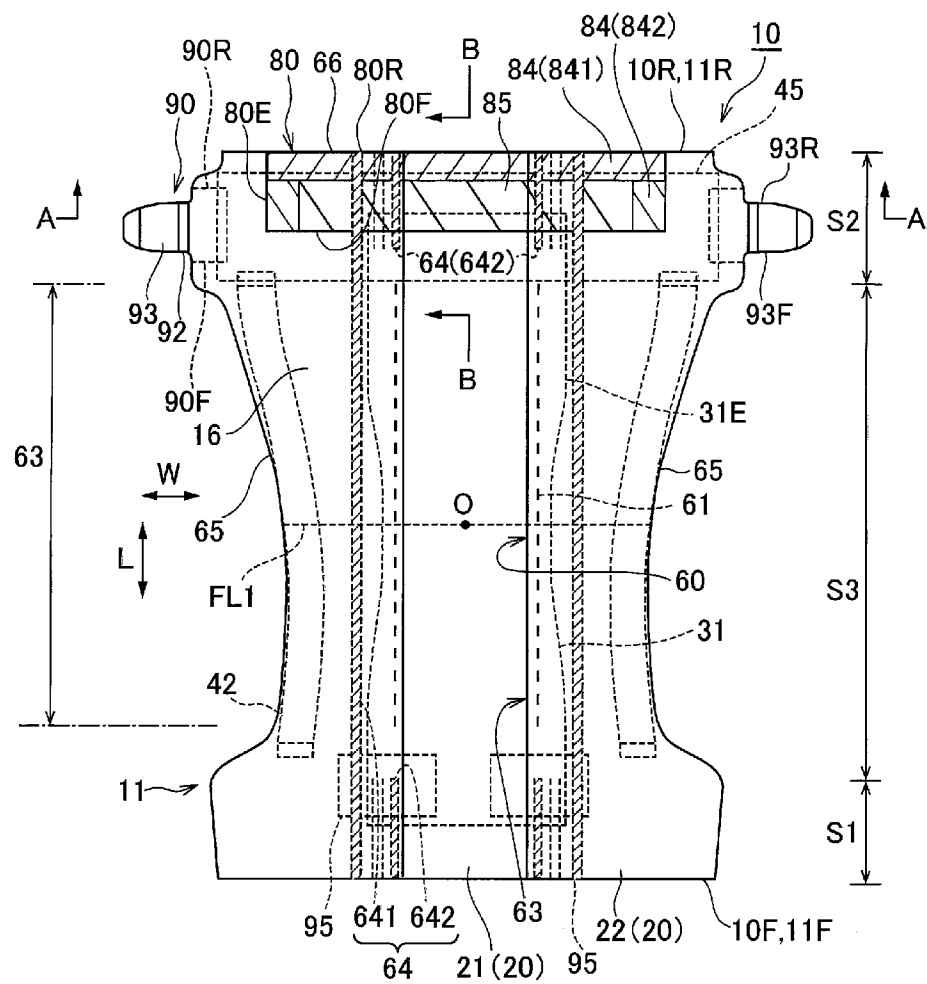
前記非接合部は、前記幅方向に伸縮する弾性部材を有し、

前記非接合部は、前記デザインが設けられている不織布層又は前記デザインが設けられているフィルム層の少なくとも一方の層を有し、

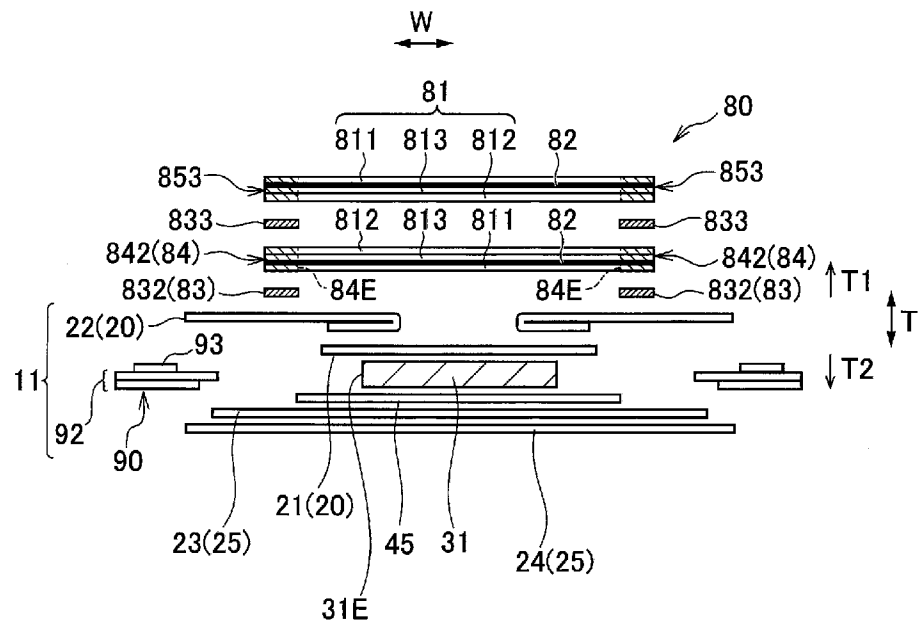
前記デザインが設けられている不織布層又は前記デザインが設けられているフィルム層は、前記厚さ方向において前記弾性部材と重なっ

ており、かつ前記弾性部材よりも前記非肌対向面側に配置されている
請求項 1 から 1 6 のいずれか 1 項に記載の使い捨ておむつ。

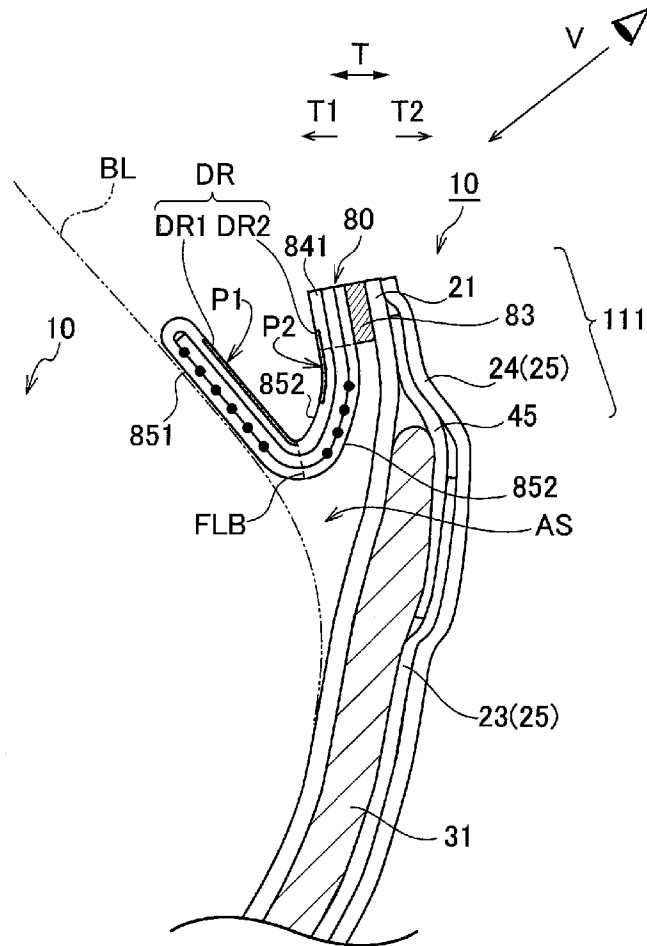
[図1]



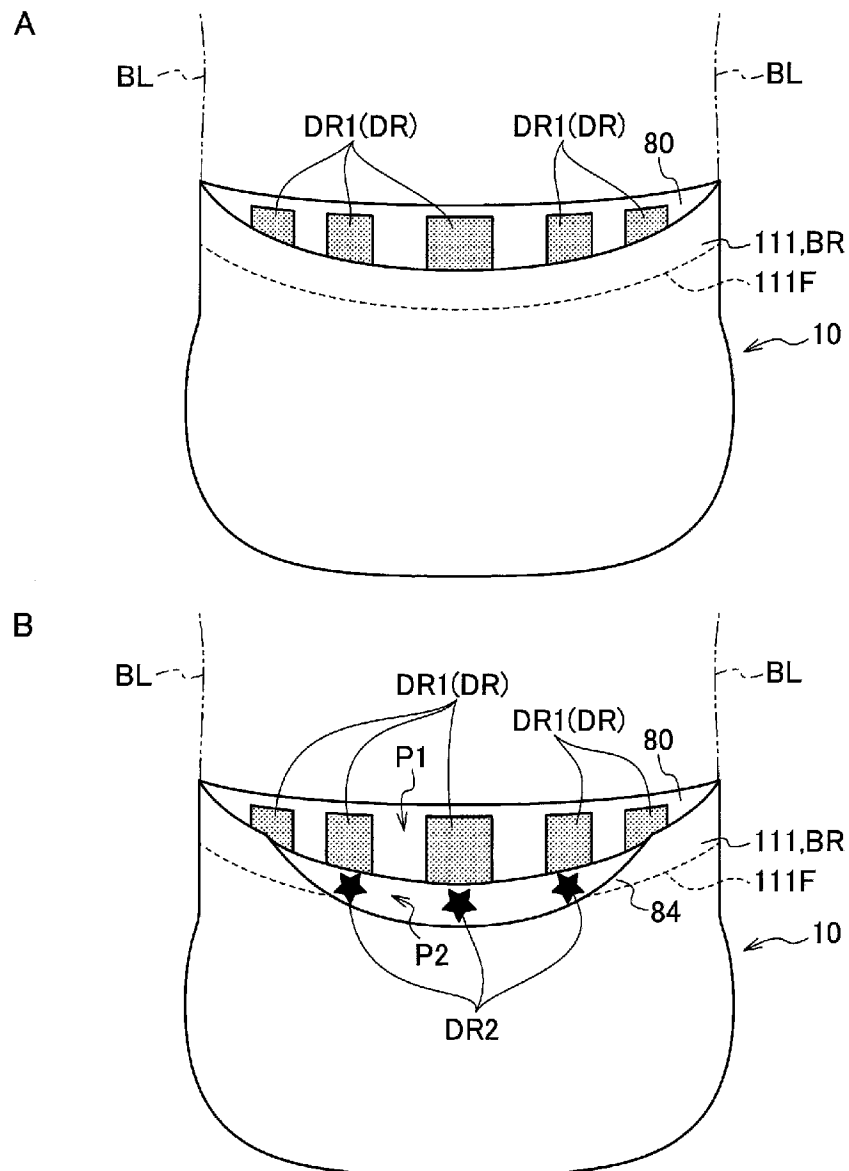
[図2]



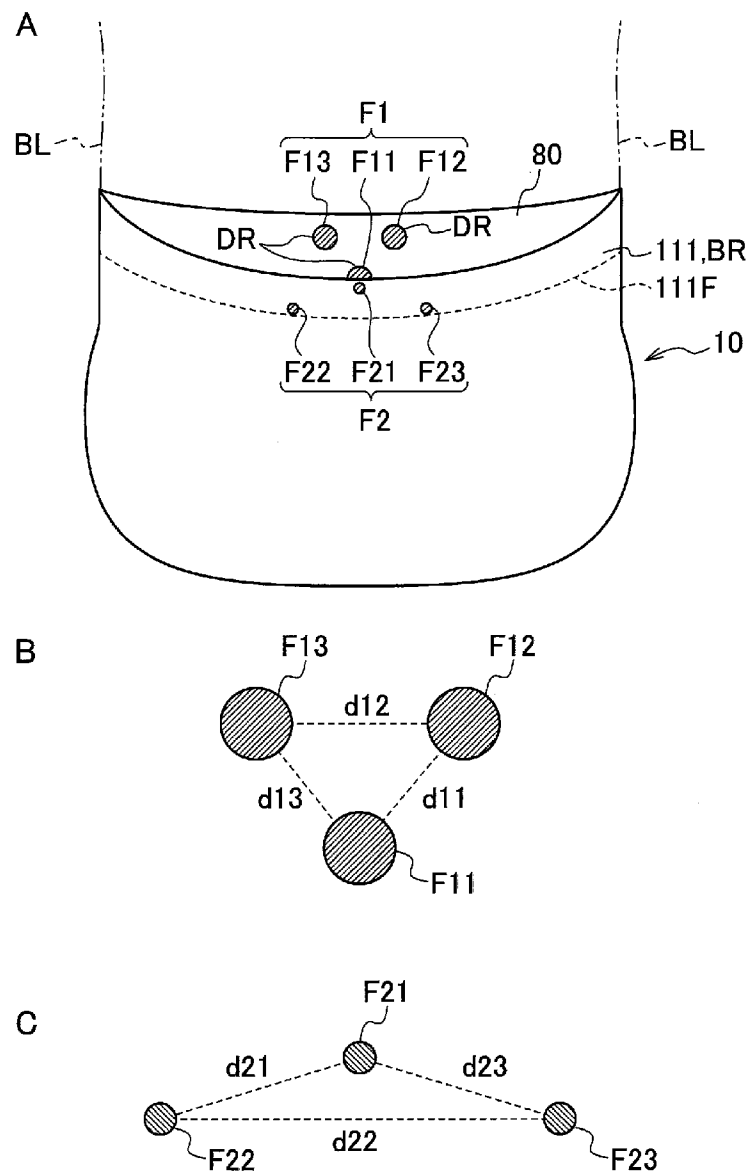
[図5]



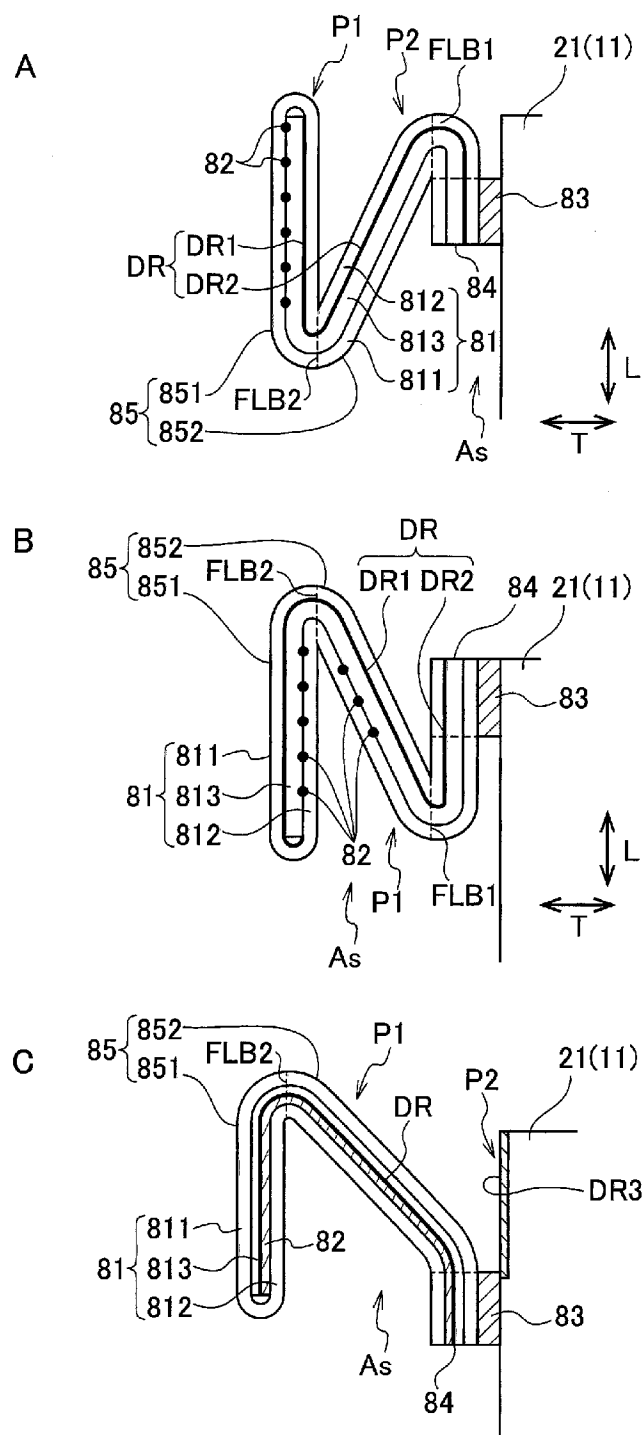
[図6]



[図7]



[図8]



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2018/045194

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

Int. Cl. A61F13/49 (2006.01) i, A61F13/494 (2006.01) i, A61F13/495 (2006.01) i

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

Int. Cl. A61F13/15-13/84

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Published examined utility model applications of Japan 1922-1996

Published unexamined utility model applications of Japan 1971-2019

Registered utility model specifications of Japan 1996-2019

Published registered utility model applications of Japan 1994-2019

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	JP 2016-187511 A (UNI-CHARM CORP.) 04 November 2016, paragraphs [0011]-[0029], [0034], [0041],	1-4, 6-9, 12, 14, 16-17
Y	[0042], [0051], [0052], fig. 1-12 & JP 5946557 B1	1-12, 14, 16-17
X	JP 2016-67958 A (UNI-CHARM CORP.) 09 May 2016, paragraphs [0011]-[0030], fig. 1-9 (Family: none)	1-4, 6-11, 14, 16-17
Y		1-4, 6-12, 14, 16-17
X	JP 2016-187510 A (UNI-CHARM CORP.) 04 November 2016, paragraphs [0011]-[0046], fig. 1-10 & WO	1-5, 7-9, 14, 16-17
Y	2016/157943 A1 & CN 107405220 A	1-9, 12, 14, 16-17



Further documents are listed in the continuation of Box C.



See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

“A” document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

“E” earlier application or patent but published on or after the international filing date

“L” document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

“O” document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

“P” document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

“T” later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

“X” document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

“Y” document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

“&” document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search
26.02.2019

Date of mailing of the international search report
12.03.2019

Name and mailing address of the ISA/
Japan Patent Office
3-4-3, Kasumigaseki, Chiyoda-ku,
Tokyo 100-8915, Japan

Authorized officer

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2018/045194

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	JP 2013-94420 A (UNI-CHARM CORP.) 20 May 2013, paragraphs [0011], [0014], [0026], [0034], [0035], fig. 1-5 & WO 2013/065619 A1	1-2, 7, 12, 14, 16-17
X	JP 2017-789 A (THE PROCTER & GAMBLE CO.) 05 January 2017, paragraphs [0071]-[0081], [0095], fig. 11-16 & WO 2013/173289 A1, page 26, line 21 to page 34, line 4, page 38, line 25 to page 39, line 16, fig. 11-16 & US 2013/0306226 A1 & CA 2873223 A1 & CN 104284644 A	1, 7, 13-17

A. 発明の属する分野の分類（国際特許分類（IPC））

Int.Cl. A61F13/49(2006.01)i, A61F13/494(2006.01)i, A61F13/495(2006.01)i

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料（国際特許分類（IPC））

Int.Cl. A61F13/15-13/84

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1922-1996年
日本国公開実用新案公報	1971-2019年
日本国実用新案登録公報	1996-2019年
日本国登録実用新案公報	1994-2019年

国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
X	JP 2016-187511 A（ユニ・チャーム株式会社） 2016.11.04, 段落[0011]-[0029], [0034], [0041]-[0042],	1-4, 6-9, 12, 14, 16-17
Y	[0051]-[0052], 図 1-12 & JP 5946557 B1	1-12, 14, 16-17
X	JP 2016-67958 A（ユニ・チャーム株式会社） 2016.05.09, 段落[0011]-[0030], 図 1-9	1-4, 6-11, 14, 16-17
Y	（ファミリーなし）	1-4, 6-12, 14, 16-17

☑ C欄の続きにも文献が列挙されている。

☐ パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）
「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

26.02.2019

国際調査報告の発送日

12.03.2019

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁（ISA/J P）

郵便番号100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官（権限のある職員）

北村 龍平

3 B

3 3 2 3

電話番号 03-3581-1101 内線 3320

C (続き) . 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
X	JP 2016-187510 A (ユニ・チャーム株式会社) 2016.11.04, 段落[0011]-[0046], 図 1-10	1-5, 7-9, 14, 16-17
Y	& WO 2016/157943 A1 & CN 107405220 A	1-9, 12, 14, 16-17
X	JP 2013-94420 A (ユニ・チャーム株式会社) 2013.05.20, 段落[0011], [0014], [0026], [0034]-[0035], 図 1-5 & WO 2013/065619 A1	1-2, 7, 12, 14, 16-17
X	JP 2017-789 A (ザ プロクター アンド ギャンブル カンパニー) 2017.01.05, 段落[0071]-[0081], [0095], 図 11-16 & WO 2013/173289 A1, 第 26 頁第 21 行-第 34 頁第 4 行, 第 38 頁第 25 行-第 39 頁第 16 行, 図 11-16 & US 2013/0306226 A1 & CA 2873223 A1 & CN 104284644 A	1, 7, 13-17